



有田2000 ロータリークラブ



No. 984
Club Bulletin

会長 芝 毅
幹事 森 誠
クラブ会報委員長 永石 睦巳

経済と地域社会の発展 月間

四つのテスト 言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

例会日/毎週水曜日 19:00
事務局・例会場/〒643-0025
有田郡有田川町土生409
吉備インターゴルフセンター
TEL0737-52-8960
FAX0737-22-6800
E-mail: info@arida2000rotary.club
URL: http://arida2000rotary.club/

本日のプログラム

令和4年10月26日(水)第985回
ソング「我等の生業」
会長の時間 幹事報告 委員会報告
ニコニコ箱報告 出席報告
会員卓話 永石 睦巳君

次回のプログラム

11月 2日 細則による休会
11月12日 白木海岸清掃奉仕例会
11月16日 会員卓話 佐原伸哉君
10月23日 細則による休会

前回の報告 (第984例会)

開催日 令和4年10月19日(水)

開会点鐘 芝会長

ソング「手に手つないで」

会長の時間 幹事報告 委員会活動報告 ニコニコ箱報告 出席報告

会員卓話 大浦輝彦君

●会長の時間●

皆さん 今晚は!

「メンバーの出席」ありがとうございます。大浦君本日の卓話楽しみにしてありました。よろしくお願ひします。あんなに暑かった、夏も終わり」季節は秋になりました。

「秋といえば」と、言うランキングを見ました。

- 1位 サンマ(秋刀魚) (38.3%)
2位 紅葉 (16.7%)
3位 栗 (9.0%)
4位 松茸 (7.5%)
5位 柿 (4.8%)
5位 梨 (4.8%)
7位 サツマイモ (2.9%)
8位 赤とんぼ (1.3%)
8位 十五夜のお月見 (1.3%)



10位 ブドウ (1.1%)

1位は、さんまでした。

脂ののったサンマは刺し身にしてもおいしいですが、みなさんのイメージする秋のサンマといえば、やはり塩焼きでしょうか。パリッと焼けた皮の香ばしさ、ジュワッとしみ出る脂、風味豊かな身。大根おろしを添えればもう完璧な秋のひと皿になりますね。

ひと昔前までは、手軽に食べられる「庶民の魚」でしたが、だんだん数が減り、今ではサンマもごちそうに。アンケートでも、「そのうち食べられなくなるかも」と言っていました。

僕は毎年、中辺路の宝泉寺の大イチョウを見に行っています。なかなかの迫力ですよ!だんだん見物客も増えてきて、他府県ナンバーも多くなってきました。去年は、地元の人々の音楽ライブも開催していました。

皆さんも、きれいな紅葉、おいしい食べ物大いに秋を楽しみましょう。

●幹事報告●

幹事 森誠君

・第2640地区より

- 1・地区会計報告のお知らせ (回覧)
- 2・地区大会についての事前のご案内 (回覧)
- 3・森本ガバナーより 公式



訪問のお礼

- 4・地区大会における表彰のご案内
11月6日 ポリオ プラス寄付優秀クラブ
END POLIO NOW 有田2000ロータリークラブ
- 5・和歌山ロータリークラブ
85周年記念誌（回覧）
- 6・米山記念奨学会より ハイライトよねやま
・例会変更はホワイトボードに掲示
・次回10/26（水）例会は永石君の卓話です。

●委員会報告●

2021-22年度 出席率100% 表彰

樋口明君 梅本茂喜君 前任君 永石睦君
大浦輝彦君 平松一彦君 梅本茂喜君 芝毅君
中屋喜臣君 南良暢君
おめでとございます。



●ニコニコ箱報告●

芝毅君：大浦君 本日の卓話宜しく申し上げます。
大浦輝彦君：皆さん こんにちは！本日の卓話させていただきます。宜しくお願い致します。
南良暢君：大浦さん 本日は素晴らしい記憶に残る卓話を楽しみにしています。

中屋喜臣君：皆様、お疲れ様です！大浦さん本日の卓話宜しく申し上げます。
下林善信君：大浦君本日の卓話お願いします。
平松一彦君：結婚記念のバラ頂きました。ありがとうございました。
前任君：大浦さん 本日の卓話楽しみです。
森誠君：急に寒くなって来ましたが、体調を崩さないようにしましょう。大浦さん本日は宜しく申し上げます。

●出席報告●

中屋喜臣君



	会員数	出席者数	出席率
本日の出席	15名	9名	60%
昨年度 平均		12.3名	82%

●会員卓話●

大浦輝彦君

人間はいつから戦争を始めたのか。世界各地で繰り返される凄惨な戦争を憎む人は多いと思いますが、戦争の根源や歴史の変遷を知る人は案外少ないと思います。戦争は、人類学的な定義に従うと「武力（武器）を伴った集団間の戦い」ということになるそうです。現在のところ歴史上で最も古い戦争の跡とされているのが、スーダンのヌビア砂漠にある「ジャバル=サハバ117 遺跡」だそうです。ここから見つかった約1万5,000年前の旧石器人骨は武器で殺傷されたもので、しかもその数はおびただしいもので、穀物の生産も家畜の飼育もまだ始まっていない旧石器時代に戦争の可能性が示されたことは、余剰生産物がもたらす富の偏在と分配を戦争の原因と考える従来の戦争史観に対する大きな反証だったそうです。

日本では、戦争の起源をめぐって縄文時代か弥生時代かで学者の間で意見が割れているようですが、弥生時代に戦争をしていたことはほぼ間違いないといえるみたいです。その最たる証拠が殺傷人骨と高地性集落跡の存在です。弥生人は小高い山の上にムラを築くことで、敵の来襲を防いだの



ではないでしょうか。また、縄文時代に比べて殺傷能力の高い大型の石鏃（せきぞく）や金属製武器が多く出土していることも、弥生時代に戦争をしていた証拠になるようです。

そもそも、武器が武器として最初から存在したとは考えにくく、縄文時代に使われた狩猟のための弓矢や槍が戦闘に転用されたと考えるのが自然のようです。

戦争はなぜ起こり、大きくなっていくのでしょうか

現代社会に近づくにつれ、戦争における対立の構図は複雑化していきます。それは戦争の要因が増えて複雑化することを意味しています。ではその原因を根源にまでさかのぼると何が見えてくるのでしょうか。

パプアニューギニアでは、「成人儀礼」というものがあり、セピック川中流域に住むイアトムル族は、少年の体に一生残るワニのうろこを模した瘢痕（はんこん）を施すそうです。彼らがワニに対して共通の祖先観念を持ち、強い同胞意識の連帯で結ばれる部族であることも原因となって、強い団結力を持っているようで、もし個人間の争いが起これば、やがて部族間の戦争に発展、例えば「息子が見下された」「女房に色目を使った」といったごくたわいないもめごとも、最終的に相手を壊滅させる部族間の戦争にまで発展しかねないそうです。調停機構が社会に備わっていないことが要因で、パプアニューギニアの民族史をひもとくと、第二次大戦前まで弓矢と槍（やり）を使った攻撃で4~5人の死者が出るのは日常なことと、それに対するリベンジも日常だったようです。

こうした歯止めのない、集団による血讐は人間以外の動物には見られないことです。戦争は社会組織や宗教生活の存在なしに戦争は起こらないし、戦争は決して恒常的制度ではなく、戦争の要因が日常的に存在していると思います。

未開社会には武器を伴わない戦争もあるそうで呪詛（じゅそ）と呼ばれる戦争だそうです。彼らは身内の不幸や災厄は敵の呪詛によるものだと真剣に考え、相手の髪や毛やたばこの吸い殻を呪詛する相手に見立てて、「作物が不作に終わるように」「壊滅するように」といった非常に生々しいことを祈るそうです。呪詛が日常的に行われ、それが原因で戦争に発展することもあり、その中から戦後処理の取引関係を築くことで台頭する親分が現れ、近隣の部族の親分と交渉して部族の利益を誘導します。部族社会は平等な社会だったと長らく考えられてきましたが、そうではなかった様です。強い霊性を背景に親分というリーダーが登場し、たくみに戦争を利用して政治経済的な役割を果たしたようです。

ロータリーでは2月が平和構築と紛争予防月間です。

世界におけるロータリーの平和構築の歴史は「平和の維持」を呼びかける第一次世界大戦前に採択

された決議から、今日のロータリー平和センターへのたゆまぬ支援にいたるまで、ロータリーには、世界の地域社会において平和を推進し、紛争の根本原因に取り組んできた長い歴史があります。

1921年、スコットランド・エディンバラで開催されたロータリー国際大会、国際ロータリークラブ連合会の定款を修正し、「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること」という目標を加えました。

さらに1922年の国際大会では、国際ロータリーと各クラブの定款が全面的に変更されました。それぞれ異なっていた目的が「ロータリーの目的」へと置き換えられ、この新しいアプローチが平和への展望を持ち続ける鍵となりました。

ロータリーは、1945年の国際連合の設立にもかかわっているそうです。

国際ロータリーは、カリフォルニア州で開催された「国際機構に関する連合国会議」（通称「サンフランシスコ会議」）の米国代表団の顧問機関として招聘された42団体の一つだったそうで、この会議には、世界各地から多くのロータリー会員や名誉会員が自国の代表団のメンバーや顧問としても出席していたそうです。

紛争の原因となる問題や、平和推進活動について認識を高めるため、ロータリーは3年間のパイロットプログラムとして平和フォーラムを創設、1988年にイリノイ州エバンストンで開催された初のフォーラムでは、ロータリーのリーダーや来賓らが「非政府団体と平和の追求」といったトピックについて意見を交したそうです。その後1990年にはロータリー財団管理委員会がこのプログラムの間口を広げ、その名称をロータリー平和プログラムに改称しました。

また、それまでロータリー会員は平和の推進に資する大学の創設を度々提案、1990年代に入ると、ハリスの逝去50周年を機に、ロータリーのリーダーらはその構想に代わる案を模索、既にキャリアにおいて平和構築に携わっている人たちに、その分野の大学院に進むための奨学金を授与することで、既存の大学が提供する定評のある平和関連課程で教育を受けてもらう。こうして1999年、「ロータリー平和センター」の設立が承認され、2002年にはロータリー平和フェロー第一期生たちの教育課程がスタートしたそうです。

今日のロータリーは、世界中の地域社会で持続可能かつ測定可能な活動を通じて、平和を構築・維持できる環境を実現することを目指しています。平和構築は現在も、人道支援団体としてのロータリーの使命の礎となっています

●閉会点鐘● 芝会長